

あとがき

本書の目的は予防接種の業務を標準化して視覚化することにあります。

しかし、ワクチン接種のやり方は医療機関によって様々で、それぞれで工夫がなされ試行錯誤の上で今の形になったと思われます。

皮下注射一つを取っても、これが正しい皮下注射ですと一つの形でお見せすることは難しく、いくつかのやり方を並べて紹介することになりました。

また、接種事故を減らす工夫では、執筆者の施設の中でも違ったやり方がなされており、すべてを紹介することはできませんでした。

本書並びに付録 DVD で紹介した予防接種の手順が唯一のものではないことをご理解いただいたうえで、これから予防接種に従事される方にとっては指針となり、すでに従事しておられる方には日常の予防接種業務の見直しの契機になれば幸いです。

片岡 正（日本小児科医会 予防接種委員会）

第2版へのあとがき

2014年4月1日に予防接種実施規則の一部が改正され、接種間隔等のルールが変更されたことを受けて関係するページの記載をあらためました。

また、2014年10月より、水痘ワクチンと成人用肺炎球菌ワクチンが定期予防接種となることが決まりました。実施の細則については、2014年5月時点での情報を元に記載していますが、実施段階で多少の変更がある可能性があります。

HPV ワクチンについては、慢性疼痛などの問題で「積極的勧奨の中止」が続いている状態での記載になりました。今後の展開はいまだ不透明な状態です。

初版発行から10か月の間にも予防接種については大きな変化がいくつもありました。

この変化はよりよい方向ばかりとは限りません。

時計の針を逆回転させないように、安全で安心できる予防接種を実践していきたいものです。

片岡 正（日本小児科医会 予防接種委員会）

第3版へのあとがき

前回の改訂第2版から3年半が経過して、改訂第3版の出版の運びになりました。

本マニュアルは予防接種にかかわる情報をできる限り最新のものとして、予防接種の現場で役立つようにと心がけています。

昨年、接種対象が乳児で接種経路が筋肉内注射のみのワクチンが製造承認されたのを機に、付録 DVD には乳幼児への「筋肉内注射」の手技を新たに収録しました。

B型肝炎ワクチンの定期接種化などで世界とのワクチンギャップは更に一步狭まってきているようにみえます。しかし、1歳以上のキャッチアッププログラムが用意されていませんので、ユニバーサルワクチネーションと言うにはまだ遠い状況にあります。

HPV ワクチンでは、いったん始まったワクチン接種が「積極的勧奨の差し控え」で止まってしまって再開の目途が立っていません。副反応には「真の副反応」と「紛れ込み」があり、現在問題になっている「副反応」はワクチンの薬液による「薬害」ではなく「心身の反応」と考えるのがワクチン分科会副反応検討部会はじめとする国内外の多くの見解です。この状況が続くようなら、せっかくワクチンがあるのにわが国の若年女性だけが子宮頸がんの脅威から守られないということになります。

できるだけ早い HPV ワクチンの接種再開が待たれます。

片岡 正（日本小児科医会 公衆衛生委員会）